

東京神学大学の1年

東京神学大学の緑豊かなキャンパスは活気に満ちています。講義は徹底した少人数制で、学生と教員は互いに真剣な議論を交わします。また、学生会が中心になって毎日のチャペル礼拝、春の運動会、秋の全学修養会、クリスマス祝会などが行われます。学生の年齢層は10代から70代までと幅広く、入学前の社会経験、出身教派も多様。互いに切磋琢磨しながら学んでいます。



全学懇談会
学生総会
運動会



夏期伝道実習

学部4年次、大学院1年次の夏に約5週間にわたって行われる必修プログラム。学生は全国各地の教会に置わされ、牧師を見習い、説教や聖書研究や祈祷会の援助などの奉仕をしながら伝道者としての日常を学ぶ。

夏期伝道実習
夏期休業

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

入学式

新入生・編入生オリエンテーション

夏期伝道オリエンテーション
夏期伝道社行祈祷会
夏期伝道実習

夏期伝道報告会
修士論文提出締切
青年の集い

全学修養会

11月入試・合格発表

教職セミナー

卒業礼拝
卒業・修了式
3月入試・合格発表



女子寮の食事会での交わり

日本伝道を担う青年の集い

献身を考えている若い世代を対象に、毎年9月の第4土曜日に開催される集い。開会礼拝に始まり、さまざまなテーマによる分団でのディスカッション、模擬授業、先輩伝道者の「証し」などがあり、神学校生活の一端を体験することができる。



神学の学びの一端に触れる、
青年の集いの模擬授業



神学専門図書館

教職セミナー

毎年1月、全国から集まる教職者（牧師、伝道師）と修了直前の神学生らが、3日間寝食を共にしながら、一主題のもとで講演やシンポジウム、分団などのプログラムを通して今日の教会の課題を神学的に話し合う。卒業後の貴重な再研修の機会であり、日本基督教団以外の教職者も参加可能。



委員会

学生会を中心とする各種委員会が運動会や修養会、愛餐会などの行事を企画・運営したり、学生ラウンジを整備したり、互いの学生生活を支える。中には複数の委員を兼任する学生もいる。委員会活動を通じて学年を超えた交流も育まれる。

学生寮

キャンパス内には学生の自治による男子寮、女子寮がある。さまざまな年齢層の学生が生活を共にし、「寮の交わりによって神学生生活が支えられた」という感想も多い。授業のある日の早朝には寮拌があり、寮生が持ち回りで獎勵を担当する。

クラス

各学年の集まりを「クラス」と呼ぶ。クラスごとに担任教員がおり、週に1度のクラス祈祷会で共に祈り、共に学び、助け合う。卒業後も交流は続き、キリストに呼び集められた者同士として長く支え合う牧師たちも多い。

神学する

神学は“学ぶ”だけではなく“神学する”もの。その意味するところは、講義や実習に限らず寝食を含む生活場面すべてにおいて神の真理を追究し、ときに情熱的に、ときに冷静に論理的・批判的に、日々格闘するように神学に相対することだと言う。

神学専門図書館

“神学する”学生を支えるものは多いがそのうちの一つは、東京神学大学が誇る神学専門図書館。古今東西のキリスト教文献およそ10万冊（洋書約6万冊、和漢書など約4万冊）を収蔵し、学内のみならず学外の研究者にも広く利用されている。

徹底した少人数教育

学部および大学院の在籍学生数は120名前後で、教員と学生の比率はおよそ1:9。この恵まれた環境の中で、教員と学生はお互いに深く知り合い、交わりながら共に学ぶ。

留学生

全学生のうち、約10%が留学生で、韓国と中国の出身者が多くを占める。「母国でだけでなく、日本で伝道したい」という熱意を持ち、日本語を学びつつ神学に挑む彼らは、日本人学生にとって大きな刺激となっている。



アジア伝道研修旅行

アジアにおけるキリスト教伝道の課題を授業によって学び、さらに、アジアの現実を学生たちが肌身で学ぶことを目的とした研修旅行が1年おきに実施されている。これまでに韓国、台湾、フィリピン、中国などを訪れ、現地の教会や神学大学と交流しつつ研修を重ねている。



学生会によるクリスマス愛餐会の風景

オープンキャンパス
クリスマス礼拝
クリスマス愛餐会

2月入試・合格発表
アジア伝道研修旅行(隔年)